

式 辞

凜とした冬の空気もいつの間にか和らぎ、春光うらかな季節がもうすぐそこまで来ているを感じさせる今日の佳き日に、ご多用中にもかかわらず、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに埼玉県立杉戸高等学校第46回卒業証書授与式を挙行できますことは、本校にとりましてこの上ない喜びであります。

また、お子様たちの巣立ちをともにお祝いしてくださるために、非常に多くの保護者の皆様にご列席いただきましたことにも、厚く御礼申し上げます。

そして、在校生全員を式場に招くのは本当に久しぶりとなります。卒業生の皆さんにとって一生の思い出として心に残る舞台が整っています。微力ながら私も、新たな門出にふさわしい式となるよう、努めてまいり所存です。

さて、264名の卒業生の皆さん、卒業誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。ただいま授与いたしました卒業証書は、皆さんが本校で、勉強に、部活動に、そして学校行事や地域の活動などに、3年間をとおして精一杯努力して取り組み、今日の日を迎えることができた証です。そのことを誇りに思い、今後の自分自身への糧としてほしいと願っています。

皆さんとの出会いは2年前、学業はもとより、部活動に、学校行事に、文字どおり学校の中心となって取り組んでいる姿に、はつらつさと頼もしさを覚えたものでした。そして今年度は最上級学年として、あらゆる場面で後輩たちをリードし、よき範を示してくれました。そんな皆さんと今日でお別れしなくてはならないのは、本当に残念です。

卒業という節目を迎え、新生活に向けて胸を膨らませている皆さんへのはなむけとして、これまで話してきたことをもとに、改めて2つのお願いを伝えます。

1つめは、『鳥の目、虫の目、魚の目』を持つということ。初めて聞いたという人もいるかとは思いますが、ビジネスの世界等ではよく言われている表現です。

説明の仕方や解釈に多少の差異はありますが、大まかに言えば、物事を見る際に、鳥のように高いところから俯瞰して見る、逆に虫のように接近して細部までしっかりと見る、そして魚のように時間や時代の流れをしっかりと見極める、というものです。さまざまな視点をもって物事を捉えることによって、それまで見えなかったものや気がつかなかったことがはっきりとしてくるというわけです。

さらに、暗い洞窟の中で逆さまにぶら下がっているコウモリに見立てて、別の角度から物事を見る、すなわち、発想を変えたり、固定観念を疑ったりする、「コウモリの目」をプラスすることもあります。

さて、卒業生の皆さん、いつも話している充実した高校生活を送るためのキーワードを覚えていますか。そうです、あの「こつこつ、わくわく、きょろきょろ」です。これは何も高校生活に限定されるものではありません。特に、自分の周囲を見渡す「きょろきょろ」、英語で言えば **Look around you**、これは、高校卒業後にも意識してもらいたいものです。その際には、たった今紹介した、「視野の広い鳥の目、視点の深い虫の目、視点の長さこだわりの魚の目、そして、視点を切り替えるコウモリの目」という観点を加えて実践してほしいというのが、今日の1つめのお願いです。

皆さんを待ち受けているこれからの社会は、今までとは比べ物にならないくらい高速化、そして複雑化していきます。そうした中、答えのない課題に果敢に挑戦し、誰も経験したことのない難局を率先して乗り越えていくためには、物事全体をしっかりと捉え、その本質を見極めることが非常に重要となります。虫の目で見るといいのか、それとも、鳥の目で見ると効果的なのか、さまざまな視点をもつ

て、待ち受けている課題解決に意欲的に取り組んでください。

もう1つの願いは、本校で培った5つの力を本校卒業後も意識して高めて続けてほしいということです。主体性・協調性・発信力・共感力・継続力は、これからの時代を生き抜く皆さんにとって貴重で有益な武器となります。なぜなら、その多くが、相手の存在があってこそ威力を発揮する力、つまり、高度なコミュニケーション能力だからです。

コミュニケーション能力を高める方法は、あちこちで具体的に紹介されています。私自身が大切にしていることは、まず確かな自己理解に基づいて自己を確立することです。その上で、相手の考えや立場を尊重しながら対応していく。多様性や価値観の違いを受け入れることや視野を広めるための情報収集も重要となります。お互いを高め合い、人としての成長を感じることができると関係を大切に、育んでいくことが、コミュニケーション能力を高めることにつながります。

不肖ながら、卒業式というハレの場をお借りして、2つの願いをいたしました。これらのことが、いつの日か、数年後、数十年後になるかもしれませんが、皆さんの心の拠り所として、何らかの役に立つことを願ってやみません。

改めまして、卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。本校で過ごした3年間で、このように立派に成長された姿に、感慨もひとしおのこととお喜び申し上げます。また、高校卒業を機に、子育ても一段落、と肩の荷が下りた思いでいらっしゃるかと推察いたします。ただ、この先も、これまで以上に悩んだり、苦しんだりすることがあるでしょう。大変僭越ではございますが、人生の先輩として、大所高所からのご対応をお願いいたします。

また、この場をお借りして、これまでに、本校の教育活動に対しまして多大なるご理解とご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。引き続き、お子様同様、本校の行く末を温かく見守っていただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

いよいよお別れの時が近づいてまいりました。これから皆さんが進む道はそれぞれ異なりますが、共通して言えることは、皆さんの言動に対して、小中高、それぞれの段階で形を変えつつずっと言われ続けてきたのとは異なり、苦言を呈されることが極端に少なくなるということです。このことを勝手に勘違いし、自分本位にふるまってしまうのか、それとも、1人の成人として、なお一層規律ある行動が求められると捉えるのか、まさに人としての真価が問われることとなります。こつこつ **Make continuous efforts**、そしてわくわく **Have fun** も忘れることなく、自覚と誇りをもって、一步一步確実に歩みを続けてください。これからの未来を担う皆さんに大いに期待します。

結びに、264名の卒業生の前途洋々たる未来に幸多きことをお祈りいたしまして、式辞とします。

令和7年3月11日

埼玉県立杉戸高等学校長

松本 剛明